

日付:2015年9月27日／聖書:出エジプト記35:4～29

説教:「礼拝は妨げられてはいけない」

一辺野古・韓国人不当逮捕を受けて一

ここは、幕屋建設のことが記されている。幕屋とは、人々が礼拝をする場所のことで民が住む身近な場所に礼拝を捧げる場をつくっているわけである。これまで礼拝をするためには、山や天幕、また特定の人物だけが神に出会い礼拝を捧げたのに対して、この幕屋は、神と民との距離が近くなる、民の生活の中心に神はおられるということ。この時、神と人、神と私という関係性が改めて確立される。神の幕屋、すなわち礼拝の場を建て上げる時に「心動かされ、進んで心から」(21節)喜んでその働きをしたということが記されている。礼拝が喜びを持って捧げられて行くということである。

今、その喜びの礼拝に与かれない私たちの仲間がいる。先週の火曜日に辺野古キャンプシュワブ・ゲート前の新基地建設反対の座り込みに参加された韓国の男性29歳の方が逮捕された。彼は、座り込みする市民らと一緒に抗議中、強制排除される中で、背後から一人の警官の足を蹴った疑いをかけられて公務執行妨害で逮捕された。しかしその理由は、座り込みには参加していない、妊娠中のお連れ合いが、二人の警官に両脇を抱えられているのを見て、間に入って行ったのだ。妊娠中の奥さんを守ろうとしての行為である。韓国では、男性警察官は、たとえ犯罪者であっても女性にそのような行為をすることは許されない。触れてもいけない。女性には、必ず女性警察官が対応することが常識なのだ(国際的に共通する常識)。ゆえに妻に対する警察官の行為に抗議したことは正当化されるはずだ。先週の金曜日は、月に一度の「辺野古ゴスペル」の時、朝から辺野古に向かう途中電話が入り、急ぎよ辺野古を通り過ぎて名護署に向かった。私たちの仲間を返すように、沖縄の民のために座り込んだ韓国の友を返すように、私たちはゴスペルを歌い、抗議の声を上げた。抗議集会を終えてお連れ合いの方が私たちのところに近づき挨拶されて、お二人がクリスチャンであることが分かった。

今、逮捕中の彼は強制的に拘束され、礼拝への参加が妨げられている。「礼拝は妨げられてはいけない」のである。礼拝がままならない状況を神は怒りを持って示しておられる。「ヘブライ人の神がわたしたちに出現されました。どうか、三日の道のりを荒れ野に行かせて、わたしたちの神、主に犠牲をささげさせてください(礼拝を捧げさせてください)。そうしないと、神はきっと疫病か剣でわたしたちを滅ぼされるでしょう。」(出8:3)。これは、礼拝を妨げる行為がどれだけ神の怒りを買う事かを示している。礼拝がままならない状況を神は怒りを持って示しておられるのだ。その妨げの最も大なるものが戦争である。その戦争に繋がる軍事基地建設阻止のために声を上げ、行動を起こした彼のことを思わずにいられようか。1日でも早く解放されることを願う。私たちの仲間を返すように、沖縄の民のために座り込んだ韓国の友を返すように、私たちはゴスペルを歌い、抗議の声を上げていく。(神谷)